

資料 5

平成16年9月21日
農林水産技術会議事務局
国際研究課

世界イネ研究会議の開催について

本年は国連の定めた「国際コメ年2004」であり、途上国の飢餓・貧困の解消に果たすコメの重要な役割について認識を高める取組みを世界各国が連携し行っている。

農林水産省でも「国際コメ年」行事の一環として、「作る」(コメ生産のための新技術)、「生きる」(健康な生活のためのコメとその利用に関する新たな知見)、「暮らす」(多面的機能の発揮と循環型社会の構築)、「共生する」(世界の食料・環境問題の解決)をメインテーマとし、イネ研究について最新の成果を紹介し今後の方向を議論するため「世界イネ研究会議」を下記により開催する。

記

1 主催等

主催：農林水産省

共催：国際稲研究所(IRRI)、アジア生産性機構(APO)、国際コメ年日本委員会、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構、独立行政法人農業生物資源研究所、独立行政法人農業環境技術研究所、独立行政法人農業工学研究所、独立行政法人食品総合研究所、独立行政法人国際農林水産業研究センター

2 日時、場所、プログラム

(1) 「世界イネ研究会議」東京シンポジウム(日英同時通訳)

日時：平成16年11月4日(木)(午前11時～午後5時)

場所：赤坂プリンスホテル(東京都千代田区紀尾井町1-2)

プログラム：別紙1

(2) 「世界イネ研究会議」つくばシンポジウム(英語のみ)

日時：平成16年11月5日(金)～7日(日)

場所：エポカルつくば国際会議場(茨城県つくば市竹園2-20-3)

プログラム：別紙2

「世界イネ研究会議」ホームページ：<http://www.jircas.affrc.go.jp/seminar/WRRC2004/>

別紙 1

「世界イネ研究会議」東京シンポジウム

1 日時：平成 16 年 11 月 4 日(木)午前 11 時～午後 5 時

2 場所：赤坂プリンスホテル「五色の間」

3 プログラム

(1) 基調講演 (4 つのメインテーマに関する講演)

- 作る - 「コメ生産のための新技術」

グルデブ・S・クッシュ (カリフォルニア大学客員教授)

- 生きる - 「日本人の食におけるコメの意味」

香川 芳子 (女子栄養大学学長)

- 暮らす - 「定住の力」

松本 健一 (麗澤大学教授)

- 共生する - 「変化するコメの経済及び政策 (食料安全保障、グローバリゼーション及び持続可能な環境利用との密接な関係) 」

ヨアヒム・フォンブラウ (国際食料政策研究所 (IFPRI) 所長)

(2) ビデオメッセージ ディウフ F A O 事務局長

(3) 食料問題解決のためのロゼッタストーン - イネゲノム塩基配列完全解読 -
独立行政法人農業生物資源研究所

(4) パネルディスカッション

・パネリスト ロナルド・P・カントレル (IRRRI 所長)

カナヨ・F・ヌワンゼ (アフリカ稲研究センター (WARD) 所長)

グルデブ・S・クッシュ、香川 芳子、

松本 健一、ヨアヒム・フォンブラウ

・コチエアー 東 久雄 (国際コメ年日本委員会副会長)

岩元睦夫 (国際農林水産業研究センター理事長)

(5) 国際コメ年記念研究功績表彰

日本イネ研究者会議

別紙 2

「世界イネ研究会議」つくばシンポジウム

1 日時：平成 16 年 11 月 5 日（金）～ 7 日（日）

2 場所：エポカルつくば国際会議場

3 プログラム

(1) 全体集会（11月5日（金）9時30分～）

基調講演

- ・世界を養う：我々は今後どれだけのコメを必要としているか？
（マニトバ大学 パーツラフ・スミル教授）
 - ・21世紀のイネ研究戦略（国際稲研究所 ロナルド・P・カントレル所長）
 - ・コメと水と暮らしがつくる持続的農業の発展（日本大学 中村良太教授）
- 表彰式 第3回セナディア賞, IRRN 最優秀論文賞 (IRRI)

(2) 分科会（11月5日（金）午後～11月7日（日）午前）

発表件数 154件（うち海外113件，国内41件）

| セッション名 | セッションを提案した機関 |
|-------------------------|-------------------------------------|
| イネ属、その多様性と進化、そして利用 | 農業生物資源研究所、IRRI |
| イネゲノムの構造と機能 | 農業生物資源研究所、IRRI |
| 遺伝子組み換えイネの将来 | 農業生物資源研究所、IRRI |
| 収量性の向上 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、 日本大学、IRRI |
| 栽培イネの遺伝資源の拡大とヘテロシスの利用 | 国際農林水産業研究センター、IRRI |
| アジアにおけるイネ栽培管理技術の動向 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、 IRRI |
| 機械化による生産性向上 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、 IRRI |
| コメ品質の改善 | 農業・生物系特定産業技術研究機構 |
| 新たなコメの用途開発 | 食品総合研究所 |
| コメの加工及び流通のためのポストハーベスト技術 | 食品総合研究所、筑波大学、IRRI |
| 水田の多面的機能の向上 | 農業工学研究所 |
| イネ栽培における土壌、水及び環境の保全 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、 農業環境技術研究所、IRRI |
| 新技術導入における農民参加のアプローチ | IRRI、国際農林水産業研究センター |
| 水田における栽培作物の多様化と農村生活 | IRRI |
| 不良環境下におけるコメ生産の拡大への取り組み | 国際農林水産業研究センター、IRRI |

| セッション名 | テーマを提案した機関 |
|-------------------|-----------------------|
| 環境に負担の少ない病虫害管理 | IRRI、農業・生物系特定産業技術研究機構 |
| コメの需要と供給 | 国際農林水産業研究センター、IRRI |
| グローバリゼーションの農民への影響 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、IRRI |
| 気候変動とコメ生産 | 農業環境技術研究所、IRRI |
| IT 活用によるイネの生産性向上 | 農業・生物系特定産業技術研究機構、IRRI |

(3) ワークショップ

| ワークショップ名 | 主催 |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 玄米の有効成分とその機能 | 日本発芽玄米協会 |
| 世界のイネ育種戦略 | 農研機構・作物研究所 |
| イネの高温・低温ストレス | 日本作物学会 |
| アジアにおけるイネ改良のための放射線等を利用した突然変異育種 | 国際原子力機関(IAEA)/FAO |
| ポスト緑の革命の特続性：インドガンジス平原におけるイネ-小麦の作付体系 | IRRI、国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT) |
| 新たなイネ栽培管理の提案 | コーネル大学 |

(4) 研究ポスターセッション(会議開催期間中)

発表件数 548件(うち海外327件,国内221件)

(5) 研究機関や企業等の展示予定(会議開催期間中)

研究機関展示：8(国際研究機関2(IRRI,アフリカ稲研究センター(WARDA))、
独立行政法人農業試験研究機関6)

書籍展示・販売：2

企業等展示：5

ごはんの試食：1(農研機構・作物研究所)